

不整脈

タイプは3種類

皆さんは、不整脈と聞くとどのような症状を思い浮かべるでしょうか。「ときどきする」「脈が飛ぶ」などは典型的な症状ですが、ほかにも「胸が詰まる」「胸痛」「息切れ」「ふらつき」「めまい」「失神」など、実はさまざまな症状があります。

また、不整脈には種類もたくさんありますが、大きく分けると、脈が飛ぶ「期外収縮」、異常に脈が速くなる「頻脈性不整脈」、異常に脈が遅くなる「徐脈性不整脈」の3つのタイプに分けられます。期外収縮は正常な人にもみられる最も一般的な不整脈で、心臓の基礎疾患や強い自覚症状がある場合を除いて、ほとんどの場合は治療の必要はありません。それに対して頻脈性や徐脈性の不整脈の場合、特に失神などの自覚症状を伴う場合には治療が必要であり、薬物治療のほかにも、頻脈性不整脈では発生源を止めるカテーテル

アブレーション治療などが、徐脈性不整脈では脈を補うペースメーカー植え込み手術などが行われます。

また、高齢化に伴い増加しているのが「心房細動」です。これは脈の間隔がバラバラで速さも不規則な不整脈で、心臓内に血栓が出来やすく脳梗塞を起こす原因となります。血栓予防のため抗凝固薬の内服治療が必要となる場合が多く、安易に中止すると脳梗塞発症の危険もあるため注意が必要です。

生活習慣では睡眠不足や精神的ストレス、疲労、飲酒などが不整脈を起こす誘因となる場合があります。不整脈を疑うような症状があれば、このような生活習慣はできるだけ改善し、一度かかりつけ医に相談しましょう。